

「プラクティカル コロノスコーピー 挿入手技から治療まで」

医療法人社団潤平会 岡本平次クリニック院長 岡本 平次 著

東京大学教授・第1外科

武 藤 徹一郎

わが国における大腸疾患の増加は著しいスピードで進んでおり、減速の兆しはない。その予防もさることながら、各種疾患の早期診断・早期治療がますます重要になってきた。周知のごとく、大腸疾患の診断法には注腸造影検査と大腸内視鏡検査があるが、従来は注腸→内視鏡の順序で検査が行われてきた。しかし、検査件数の著しい増加に伴い、より効果的な検査システムを確立することが必要になってきた。すなわち、注腸造影検査で異常があれば再度内視鏡検査を行うという二重検査のむだを省いて、最初から大腸内視鏡検査を行うという方法である。その実現のためには、安全かつ確実に盲腸まで挿入する技術を持った内視鏡医の養成が急務であることは言うまでもない。著者岡本平次氏は早くからその必要性を説き、自らそれを実証してきた、わが国におけるコロノスコピストのパイオニアとしてつとに有

名である。本書は著者自らの経験を通じて、1人でも多くの大腸内視鏡検査のエキスパートを育て、社会のニーズに応えようという情熱から生まれた好著である。

著者は大腸内視鏡1本で開業し活躍していることでも話題の人であり、これが可能なのも盲腸までの到達時間3分10秒、到達率99.8%という著者のハイテクに負うところが第一であるが、最近の検査の需要の増加にも関与していると思われる。年間4,000件にのぼる検査、10年間で20,000個のポリペクトミーの経験はわが国第一であり、本書の中にその結晶が豊富にちりばめられている。うまくいった話だけでなく、むしろそうでなかった例、失敗例とそれに対する対策、予防法がしっかり述べられている点が本書の特色の1つであり、本書の内容が本物であることを示している。

本書の構成は2部から成り、第1

部で1人操作法によるトータルコロノスコーピー法が10章に分けて詳細に述べられている。著者の経験に基づいた懇切丁寧な解説とともに、内視鏡医自身のケアについても言及されているという気の配りようである。筆者も初めから1人操作を行っているので、著者の主張には全面的に賛成である。第2部では9章を割いてポリペクトミーの実際が述べられており、日常診療にすぐに役立つプラクティカルな記述に満ちている。最後の章の“コロノスコーピー Q & A”も有益な情報に富んでいて大変参考になる。“スコープ”を熟知せよ、愛せよ、という著者の言葉こそ読者に伝えたい最大のメッセージと言えるだろう。大腸内視鏡検査に携わる若い医師に勧めたい好著である。

● B5 頁200 図72 写真29
原色図209 色図24 表17 1995
定価18,540円(税込) 〒400